

表 シカゴ連銀経済報告(2022年7月13日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	緩やかに(moderately)増加 賃金は急速に(rapidly)増加	今後12カ月間同様のペースで増加すると見込まれる。引き続き労働者の確保が困難であり、多くの企業が思うように生産能力を発揮できないことを指摘した。労働市場の逼迫に加え、労働者が賃上げを要求するきっかけとして、関係者は高インフレを挙げている。多くの企業が、急速に上昇する市場賃金に対応するため、通常の年間賃上げに加え、年央の賃上げを実施した。
物価	急速に(rapidly)上昇	物価の上昇ペースはやや鈍化し、今後1年間はさらに減速すると予測される。生産者物価は、労働、エネルギー、輸送のコスト上昇を反映し、大幅に上昇した。原材料費については、鉄鋼、銅、アルミニウム、木材の価格が下がった。消費者物価は、堅調な需要、限られた在庫、コスト上昇の転嫁により、全体的に堅調に推移した。多くの企業が、顧客からの値上げに対する反発は限定的であると述べているが、コスト上昇分の一部しか転嫁できていないとする企業もある。
個人消費	わずかに(slightly)増加	購買行動は、コスト上昇が消費者に転嫁された場合、低所得層は安価なストアブランドを購入し、高所得層はより多くの商品をまとめ買いしていることが報告されている。自動車以外の小売売上高は、食料品とガソリンの売上高の増加に牽引され、わずかに増加した。家具や電子機器など、一部の耐久消費財部門は需要が鈍化した。自動車の販売台数は、全体的にわずかに増加した。中古車販売台数は増加したが、新車販売台数は依然として低水準の在庫に制約されているため、ほとんど変化はなかった。新車の価格は変化なかったが、中古車の価格はわずかに下がった。
企業支出	控えめに(modestly)増加	小売業の在庫は、サプライチェーンの停滞が続いている部門では引き続き低水準であった。製造業の在庫は、多くの企業が在庫積み増しを行っているため、緩やかに増加した。小売業・製造業の関係者ともに、在庫問題が2023年まで続くと予想している。輸送サービスに対する需要はほとんど変化せず、高水準を維持した。設備投資は控えめに増加し、新しい機器やハイブリッドワーク環境向けの技術の購入が報告されている。企業は金利の上昇により、支出に慎重になっているという業界関係者の声も聞かれる。商業用および小売用のエネルギー消費量はわずかに増加し、工業用のエネルギー消費量には変化はなかった。
建設と不動産	わずかに(slightly)減少	住宅用不動産は小幅に減少した。住宅ローン金利の上昇が、売り出し件数を押し下げる要因となったが、住宅価格はわずかに上昇した。非住宅建設は横ばいとなったが、資材や労働力不足が引き続きプロジェクトの完成時期を遅らせる要因となっている。新規の産業用スペース、特に倉庫への需要は引き続き堅調に増加した。ミシガン州南東部では、電気自動車関連への新規投資が相次ぎ、建設計画の受注残が多くなった。
製造業	わずかに(slightly)減少	製造業の生産はわずかに減少した。サプライチェーンの問題や労働力不足のため、引き続き生産が抑制された。自動車生産は、マイクロチップなどの材料不足が続き、横ばいとなった。大型トラックは、需要・価格ともに高水準を維持したが、若干の減少となった。重機需要は、農業セクターの成長に牽引され、小幅に増加した。加工金属の需要は、自動車セクターで減少したものの、農業セクターでは増加した。
金融	やや引き締まった(tightened some on balance)	株式・債券市場では、金利とボラティリティが上昇し、資産価値が減少したとの報告があった。企業向けローンの質は横ばいとなったが、経済状況の先行きに対する不透明感が強まったため、基準はやや厳しくなった。消費者市場では、金利上昇に伴う住宅ローンの借り換えが大幅に減少し、融資額は小幅に減少した。消費者ローンの質は安定しており、基準はやや緩やかになった。
農業	主要作物の価格はいくらか下落	一部の地域では豪雨や乾燥などの悪天候のため、収穫高の減少が懸念されたが、トウモロコシと大豆の生育状況は、管轄区の大部分で平均に近かった。トウモロコシと大豆の価格は報告期間中にいくらか下落したが、牛乳の価格は全般的に上昇した。鳥インフルエンザによる影響で生産の減少していた鶏卵は、生産能力が回復に向かっており、卵の価格は下がった。豚と牛の価格は上昇した。農地価格は再び上昇した。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成